

DXの処方箋

エンタープライズサーチの 選定に不可欠な 8つのポイント



Panasonic

パナソニック デジタル株式会社

本資料でお伝えすること

DXを加速するツールのひとつとして、データ検索の手間を削減できる「エンタープライズサーチ」が注目されています。

本資料では、エンタープライズサーチの製品検討段階で押さえておきたいポイントについて、導入目的の定め方～投資対効果の概算方法まで網羅し、まとめました。

内容

1. エンタープライズサーチとは？
2. 選定する前に、導入目的を明確に
3. 押さえておくべき8つの選定ポイント
4. 社内稟議で想定される質問

1. エンタープライズサーチとは？

エンタープライズサーチとは、**社内外のデータを**
一括で横断検索できるようにするためのシステムです。

企業内でデータが散在しており、
「**ファイルサーバの中でデータが迷子になってしまった…**」
「**ファイルサーバにもBoxにもデータが見当たらない！**」など
あちこちを探した経験は誰しもあるものと思いますが、
横断検索によってこうした手間を削減することが可能です。

普段**GoogleやYahoo!**を利用するのと同じ感覚で
シンプルに検索できる点も、エンタープライズサーチの大きな特長です。



2. 選定する前に、導入目的を明確に

まずは、自社のどんな課題を解決したいのか、**導入目的を明確に**しましょう。導入の目的が明確になるほど、**必要とする機能がはっきりとし、選定の軸が定ま**ってきます。

ここでは、代表的な導入目的を3つ紹介します。

① 従業員の業務を効率化したい

- # 情報収集の時間短縮
- # 情報管理の手間削減
- # 本業への集中

② ナレッジマネジメントに活用したい

- # 知識伝承・技術伝承
- # 社員全体のスキルアップ
- # テレワーク時代の社員教育

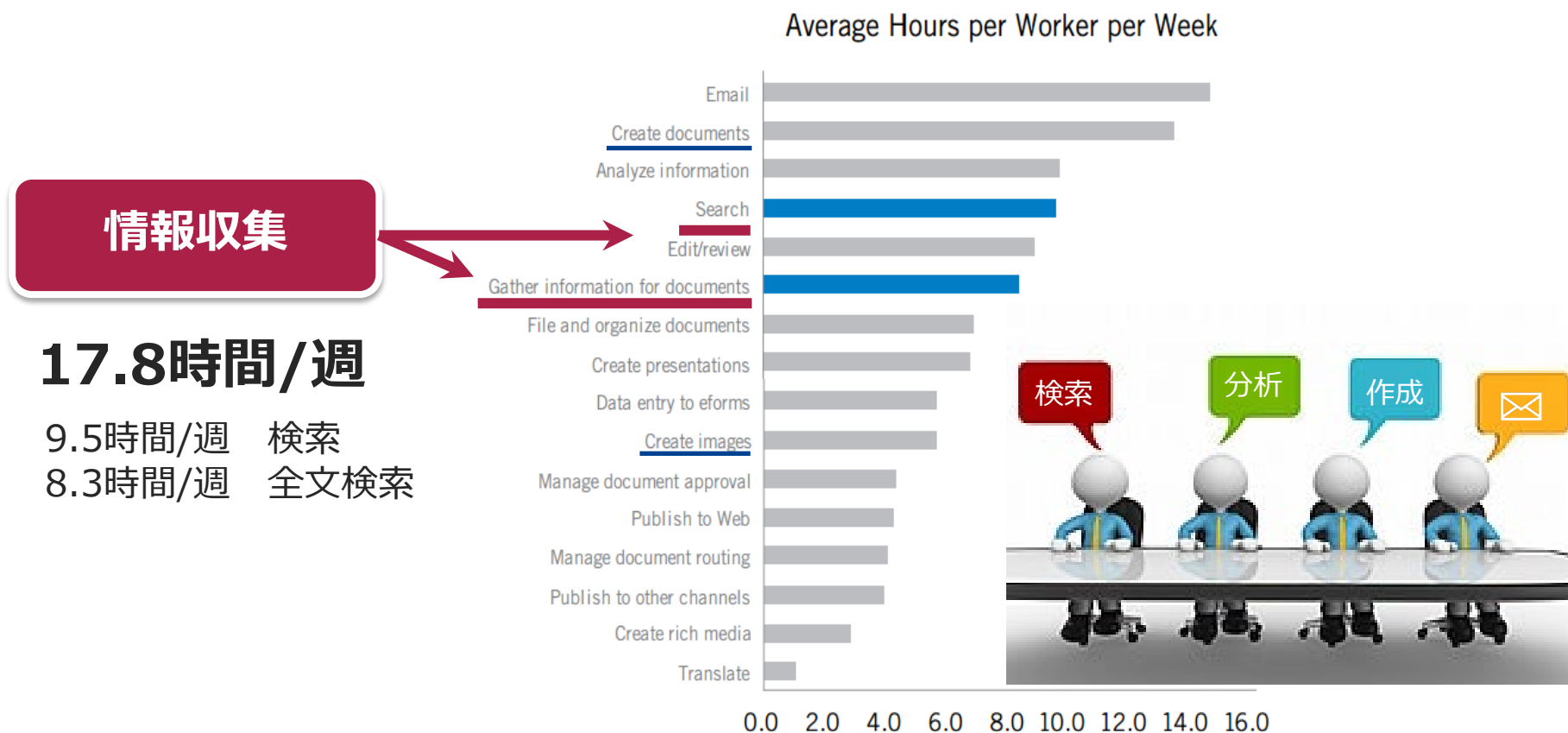
③ 社内での検索需要を経営戦略に役立てたい

- # データマイニング
- # アイデア発見

導入目的①従業員の業務を効率化したい

エンタープライズサーチの導入目的で最も多いのが「**従業員の業務効率化**」です。

情報収集は、ホワイトカラーの業務時間の約3割を占めると言われています。



Return on Information: Improving your ROI with Google Enterprise Search
ref. google white paper

導入目的①従業員の業務を効率化したい

情報収集に時間がかかる要因は、「データ量が膨大に増え続ける」「データの保管場所が多岐に渡る」「検索結果が返ってくるのが遅い」などが挙げられます。

ですから、エンタープライズサーチを選定する際は、以下に着目するのが良いでしょう。

「従業員の業務効率化」を目的とする場合の選定基準

- ・どこまでのデータを蓄積できるのか
- ・自社のデータ保管場所に対応しているか
- ・検索速度

導入目的②ナレッジマネジメントに活用したい

ベテラン社員や優秀な社員の勘・ノウハウといった「**暗黙知**」を、他の社員にもわかる「**形式知**」として共有することで、社員全体のスキルアップを図る手法が「ナレッジマネジメント」です。

「暗黙知」「形式知」を車の運転に例えると？

暗黙知



- 練習してコツをつかむ
- 個人の感覚で運転できる

形式知



- 口頭やマニュアルで教わる
- 誰でも意味を理解できる

導入目的②ナレッジマネジメントに活用したい

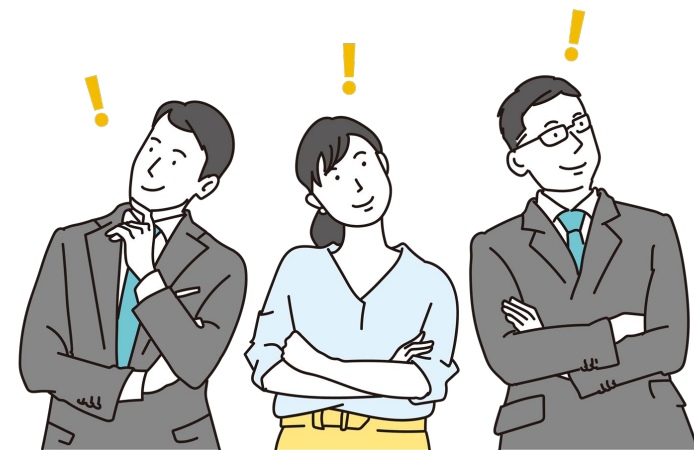
エンタープライズサーチは、下記のような理由から、ナレッジマネジメントにも活用できます。



文書の所有者を
確認することで
「誰が何に詳しいか」が
一目で分かる



うろ覚えの検索でも、
メインのキーワードを入力すれば
それに続く語句を補完してくれる



検索対象・共有対象を
広げることで
「こんな資料・情報あったんだ」
などの発見に繋がる

導入目的③社内での検索需要を経営戦略に役立てたい

エンタープライズサーチを導入することで、従業員がいつどのようなキーワードを検索しているかといった検索需要をログとして取得することが可能です。これらの情報をデータマイニングすることで、経営戦略におけるアイデアを発見できたり、次の一手が見えてくることもあるでしょう。

エンタープライズサーチで得られる「検索需要」の例

- 検索キーワードの傾向・トレンド
- 検索需要はあるが資料や情報が社内に不足しているもの
- よく参照されている文書・データ
- よく利用する部署・支社・工場など

導入目的③社内での検索需要を経営戦略に役立てたい

データマイニングの目的でエンタープライズサーチの導入を検討している場合、加えて次の2つのポイントを導入時に確認するとベストです。

「データマイニング」を目的とする場合の選定基準

- そのツールがどこまでのデータを蓄積できるのか（データ量や期間等）
- データのエクスポートはある程度自由にできるのか（エクスポート形式や他ツールとの連携など）

3. 押さえておくべき8つの選定ポイント

導入目的を整理できたら、実際にツールを選定していきましょう。

選定の際のポイントとしてよく挙がるのは、以下8項目です。

- 1 対応レポジトリ・対応ファイル形式
- 2 検索結果の速度・検索性能
- 3 汎用性・拡張性
- 4 オンプレorクラウド
- 5 操作性・従業員の使いやすさ
- 6 閲覧権限・セキュリティ
- 7 管理者向けレポートや導入・設定のしやすさ
- 8 利用料金／料金体系

選定ポイント①対応レポジトリ・対応ファイル形式

どのような目的でも共通して重要なのが、対応するレポジトリやファイル形式が社内によく利用するものと合致しているかどうかです。しっかりと確認しておきましょう。

検索対象範囲

例えば…
ファイルサーバ、SharePoint Online、Box、社内ポータル、社内DBなど

対応ファイル

例えば…
Microsoft Office文書（Word、Excel、Powerpoint）、PDFファイル、画像ファイル、その他テキストデータなど

選定ポイント②検索結果の速度・検索性能

検索性能は重要なチェックポイントです。

特に「従業員の業務効率化」が目的である場合、成否の鍵を握っているとさえ言えます。

検索結果のレスポンス

速いとストレスなく活用でき、利用促進につながる
遅いと業務の足を引っ張る結果に

検索結果の精度

- ・文書やデータ内に検索語句が含まれているかどうか
- ・検索意図に沿った結果が得られるか
- ・類似文書がヒットするか

大規模対応

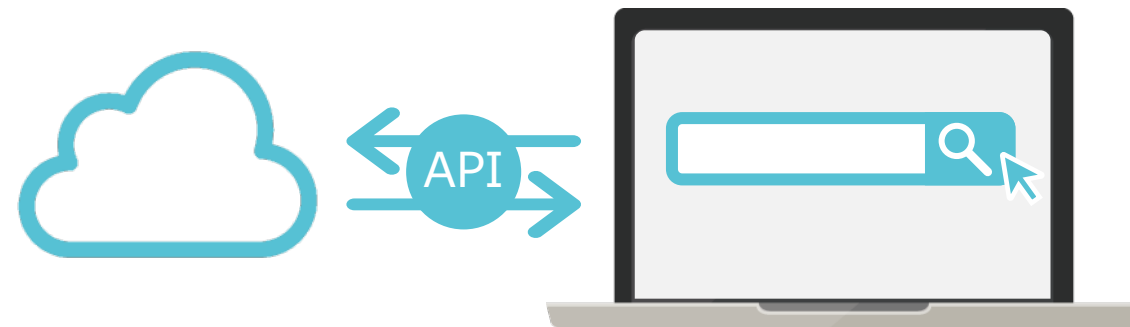
利用者数・文書容量・対象範囲が大規模になっても、性能が安定して維持できるか

選定ポイント③汎用性・拡張性

エンタープライズサーチが社内システムなどとの連携が可能であれば、利用する従業員の利用促進に繋がったり、業務効率がさらに上がるといった効果も期待できます。



グループウェアや社内ポータルに
組み込むことが可能か



APIやSDKといった
連携機能を利用できるか

選定ポイント④ オンプレorクラウド

導入するエンタープライズサーチが、**オンプレミス型orクラウド型**かも選定時に必ずチェックしておきたいポイントです。

オンプレミス



- サーバ構築の手間や予算が多少かかる
- 自社にあった機能が自由に追加できるなど拡張性が高い
- クラウド型と比較して長期でのコストメリットが大きい
- セキュリティ面ではクラウド型よりも安心できる側面も

クラウド



- サーバやシステムの構築が不要となる場合もある（ホスティング会社による）
- ホスティング会社によってはサーバを短期に用意することが可能
- サーバ費用の初期コストを下げられる可能性が高い
- インターネットにつながっていればどこでも利用可能

選定ポイント⑤操作性・従業員の使いやすさ

導入するエンタープライズサーチが従業員にとって操作しやすいか、シンプルなインターフェイスかどうかも確認が必要なポイントです。こうした操作感（インターフェイス）は従業員の利用頻度に直結するので、導入の際はデモ版や評価版などで一度試してみると良いでしょう。

操作感に関するチェックポイント

- 検索する際の操作画面は分かりやすいか
- 検索結果画面の一覧性は高いか
- 検索結果画面にサムネイルやプレビュー機能はあるか
- 細かな検索条件に対応しているか（絞り込み等）
- 検索結果から直接データの保存場所へ移動できるか
- スマートフォンやタブレットなどのデバイスにも対応しているか

選定ポイント⑥ 閲覧権限・セキュリティ

情報漏えい防止のためにも、顧客の個人情報や経営上の重要書類など、**機密情報をユーザー単位できちんと非表示にできるか**といった閲覧権限も重要なポイントです。

閲覧権限

自社でよく利用するレポジトリにおいて、閲覧権限をどこまで細かく設定できるか

外部からのアクセス

オンプレミス型 … 設置する社内サーバに依存
クラウド型 … ホスティング会社に依存

メーカーからのアクセス

基本的にメーカーが機密情報に触れることはないが、契約時に「情報へのアクセス」に関する条項が含まれているかを確認しておくことベター

選定ポイント⑦管理者向けレポートや導入・設定のしやすさ

管理者の皆さんがエンタープライズサーチをうまく活用できるよう、**検索需要**（検索語句やトレンドなど）に関するレポートやログの内容と、ベンダーのサポートレベルについても確認しておきましょう。

検索需要に関する レポート・ログ

- ・レポート・ログの内容
- ・取得できるデータ形式
- ・カスタマイズ性
- ・保存できるデータ量・期間

導入サポート・運用 保守

- ・どこまでサポートしてくれるか
- ・運用時の保守内容

選定ポイント⑧利用料金／料金体系

最終的に気になるのはやはり導入コストです。単純に運用費用が安いか高いかで判断はできません。以下の点も踏まえてじっくり検討しましょう。

導入コストに関するチェックポイント

- ライセンスは買い切り型なのか、サブスクリプション型なのか
- ライセンス費用以外に導入時に発生する費用とその内容
- 運用時の保守・サポート費用とその内訳
- アカウント数（利用する従業員数）によって費用は変動するの
か
- 対象文書数によって費用は変動するの
か

4. 社内稟議で想定される質問

もしエンタープライズサーチを初めて導入されるという場合、社内からは不安の声が上がることもあるかもしれません。よく聞かれるのは以下の3つです。



ファイルなんて探さないよ



ファイルサーバの整理が先では？

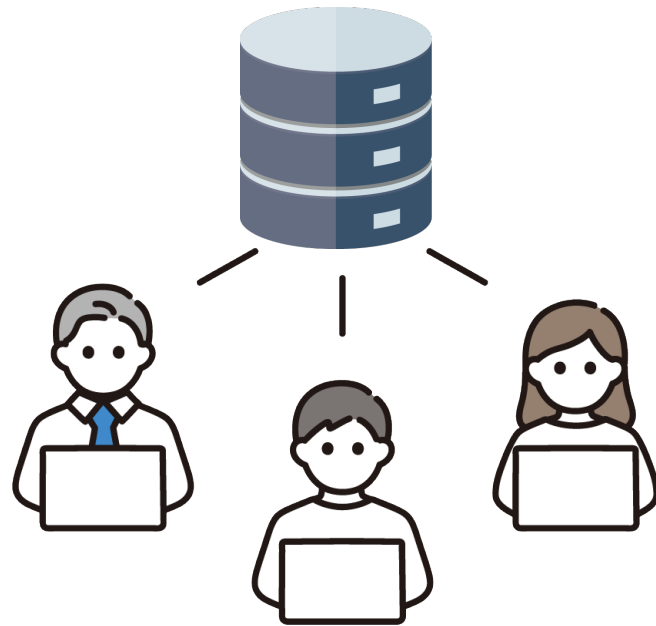


投資対効果が出るの？

想定される質問「ファイルなんて探さないよ」

ファイルを探す時間は微々たるものかもしれませんが、「塵も積もれば山となる」です。

実際に大手企業のお客様では、ファイルサーバのアクセス解析の結果、平均1日1.2時間もアクセスしていることが判明したという事例があります。



想定される質問「ファイルサーバの整理が先では？」

「整理されないからこそ、エンタープライズサーチが必要！」とパナソニック デジタル株式会社（以下、パナソニック デジタル）は考えます。

ユーザーさんは細かいルールは覚えられません。シンプルなルールとエンタープライズサーチを組み合わせることで、「探す」を解決します。



想定される質問「投資対効果が出るの？」

米IDCの調査（※1）では、平均的な社員は1人あたり週に9時間（約25% ※2）もの時間を、情報を探すために費やしていると報告しています。

1,000人以上の企業に勤める社員の平均給与が460万円（※3）で計算した場合、

$$460\text{万円} \times 25\% = 115\text{万円/人}$$

に相当するコストが調査に費やされていることとなります。

例えば10%の時間を削減でき、それを価値換算すれば、

$$115\text{万円} \times 10\% = 11.5\text{万円/人}$$

となり、それが1,000人規模の企業で1/3（※4）の社員の方に効果があるとすれば

$$11.5\text{万円} \times 1,000\text{人} \times 1/3 = \text{約3,840万円/年間}$$

もの価値を本質的な業務にシフトできることとなります。

※1 <http://www.scribd.com/doc/6138369/Whitepaper-IDC-Hidden-Costs-0405>

※2 1日の業務時間を7.5時間とし、9÷（7.5×5日間）で計算

※3 国税庁 平成22年 民間給与実態統計調査結果

※4 全ての社員の方が使用するとは限らないため

パナソニック デジタルがおすすめる「Neuron ES」

パナソニック デジタルがおすすめるエンタープライズサーチは「Neuron ES」です。エンタープライズサーチとしては後発製品ながら、大手企業を中心に400ライセンス以上の導入実績を有しており、IT製品・サービス比較サイト「ITトレンド」のエンタープライズサーチ部門において8年連続1位を獲得しています。



パナソニック デジタルがおすすめする「Neuron ES」

クラウドもオンプレも対応可能で、それぞれの認証システムと連携しながらシンプルに賢く横断検索できるエンタープライズサーチです。

The screenshot shows the Neuron ES search interface with several callout boxes highlighting key features:

- 誰でも欲しい情報にリーチできるインテリジェント検索** (Intelligent search that reaches information everyone wants): Points to the search bar and filters.
- 誰が何に詳しいのか Know WHO検索** (Know WHO search): Points to the search results area.
- サムネイル・プレビューで欲しい情報を直感的に確認** (Intuitive confirmation of desired information with thumbnails and previews): Points to the thumbnail and preview area.
- 類似文書をサジェスト** (Suggest similar documents): Points to the 'おすすめのリンク' (Recommended links) section.
- 利用者の権限に応じて検索結果を表示** (Display search results according to user permissions): Points to the search results area.
- 選択したリポトリを横断検索** (Cross-search across selected repositories): Points to the '取得元' (Source) sidebar.
- 欲しい情報に素早くリーチする絞込検索** (Narrow search to reach desired information quickly): Points to the 'ファイル種別' (File type) sidebar.

The interface includes a search bar with 'neuron 提案書-見積', filters for '条件' (Content, File name, etc.), and a sidebar with '取得元' (Sources) and 'ファイル種別' (File types). The main results area shows a list of documents, including a PowerPoint presentation titled 'neuron 選ばれる理由.pptx'.

パナソニック デジタルがおすすめする「Neuron ES」

管理者用画面では、利用者の検索履歴から興味・関心どころのトレンドを可視化でき、業務改善策の立案に活用可能です。



Neuron ESが選ばれる4つの理由



シンプル

高機能ながらもマニュアルレスで直感的に利用できるシンプルな操作感。誰でも迷いなく使い始めることが可能。



検索機能

横断検索機能により、探す前に資料がどこに保存されているかを考える必要なし！インテリジェントな検索機能で、利用者に新たなインサイトも提供。



低コスト

利用者数、サーバ数に依存しない無制限ライセンスで、大規模でも安心。スモールスタートしやすい月々9万円～のサブスクリプションモデルも好評。



検索性能

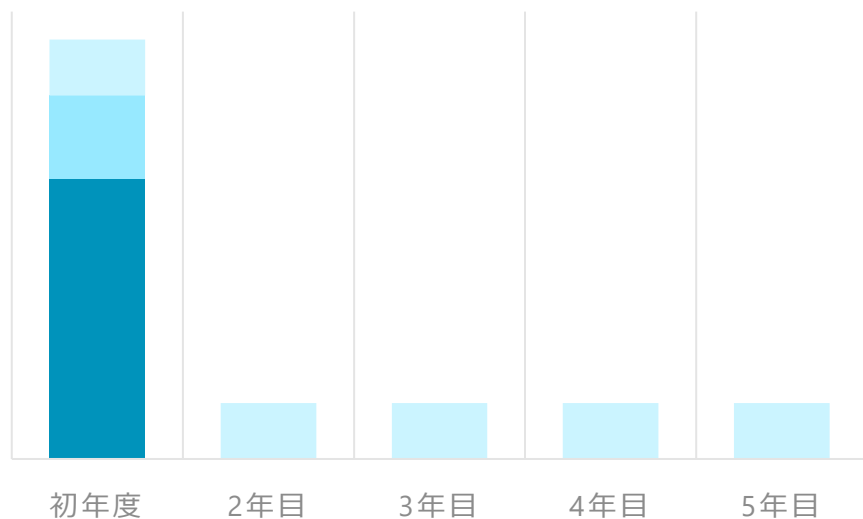
独自開発の高速クローラーによって、欲しい情報がすぐに検索対象に。さらには、300TBを超える文書群からでもサクサク検索。

ライセンス体系

ご予算や利用シーンに合わせて最も高コスパなライセンスをご提案します。

買取型

■ ライセンス費 ■ 導入費 ■ 保守費

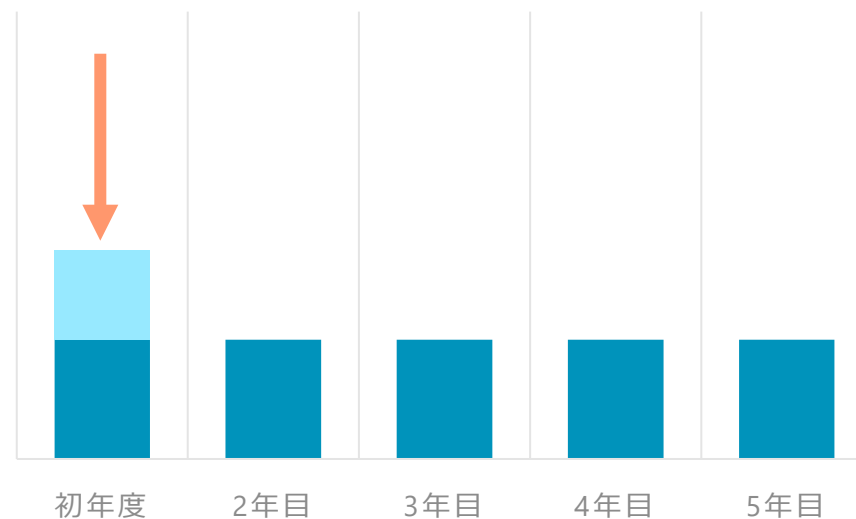


ライセンス費：180万円
(200万文書までの場合・目安2TB)

- ・長期利用を見据え最もお得に利用したい
- ・資産として計上したい

サブスクリプション型

■ ライセンス費(保守込) ■ 導入費

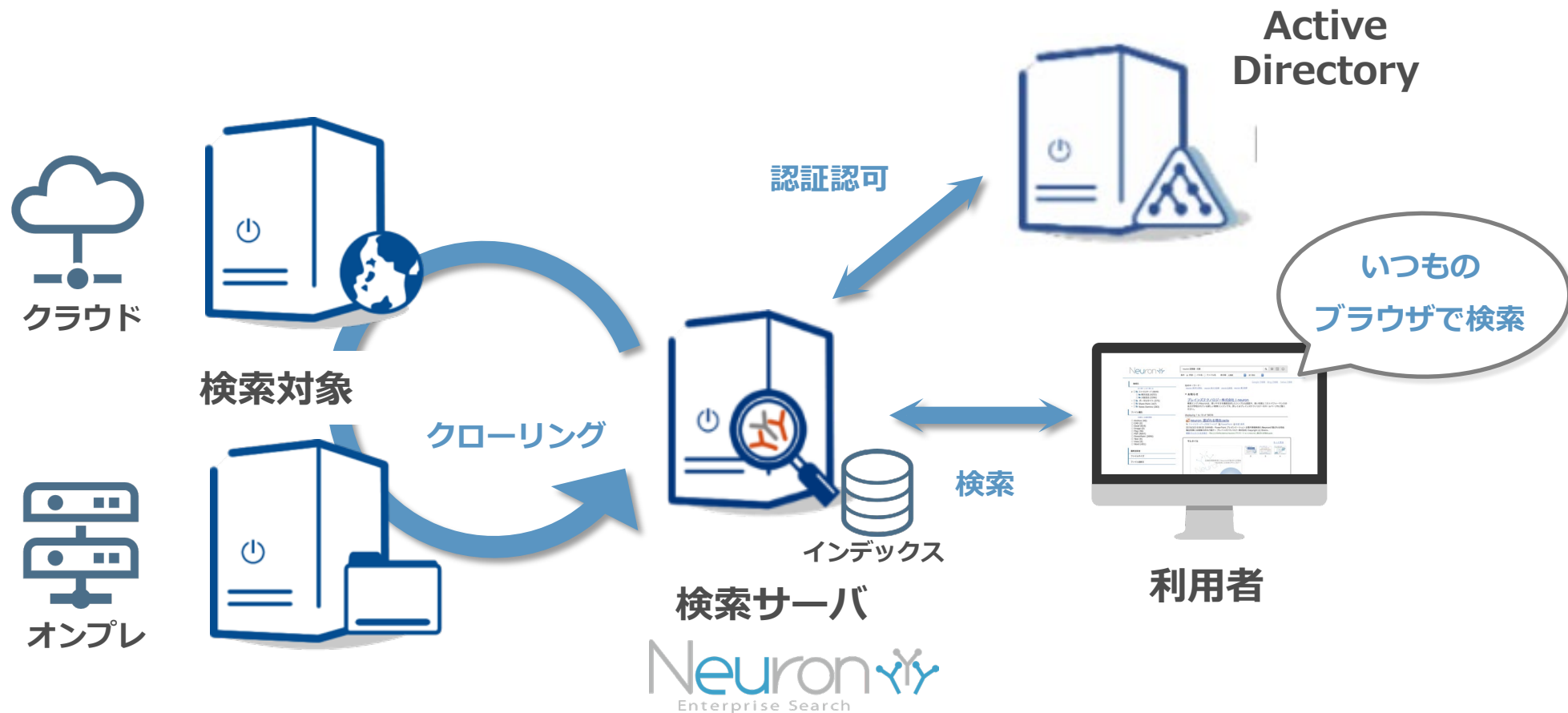


ライセンス費：9万円/月
(200万文書までの場合・目安2TB)

- ・今後のシステム変更等に備え初期費用を抑えたい
- ・経費として計上したい

検索の仕組み

既存システムに変更を加えることなく検索対象をクローリング*。利用者はいつものブラウザで検索するだけです。



*クローリング…検索対象の文書からテキストを抜き出しインデックスを作成すること

機能・技術仕様（検索支援機能）

🔍 検索支援機能

機能	機能説明
画像検索	サムネイル表示・プレビュー表示で視覚的による文書検索を支援する機能
絞り込み（ファセット）	取得元リポジトリ、文書タイプ、所有者、文書サイズや更新年月日によって文書を絞り込む機能
高度な検索	キーワードに追加入力することでより意図に近い検索結果を表示させる機能
ファイル名検索	ファイルのパスに含まれる情報のみを検索対象とする機能
ハイライト	検索結果の画面で、結果の中の検索語句をハイライト表示する機能
ソート	検索結果を日付順、人気順、関連度順、ファイル名でソートする機能
関連キーワードレコメンド	入力された検索語の同義語や、いままでに検索されたキーワードから同時に検索されやすいキーワードを推薦する機能
関連文書検索	選択した文書と関連性、類似度が高い文書をおすすめリンクとして表示する機能
重複排除	重複するファイルをまとめて表示する機能
検索履歴	これまで検索したキーワードの履歴と、クリックしたコンテンツの履歴を最大で1年分確認することができる機能
ユーザ辞書登録	ユーザ独自の辞書を定義し登録する機能
標準辞書	IPADIC（30万語）の辞書を内包
画面設定	検索結果表示件数の変更やファセット表示の変更等、検索画面の設定が行える機能
タグ付け	フォルダやファイル毎にお客様独自のタグを付与する機能

機能・技術仕様（対応レポジトリ）

☰ 対応レポジトリ

レポジトリ	サーバ環境
ファイルサーバ	SMB1, SMB2, SMB3対応ファイルサーバ（Windowsファイルサーバ, Samba, NetApp, NAS等）
ファイルシステム	Windowsファイルシステム（NTFS）, Linux
Webサーバ	HTTP/HTTPS
データベース	Oracle, SQL Server
SharePoint	SharePoint 2013, 2016, 2019
SharePoint Online	https://xxxx.sharepoint.com
Notes	Notes/Domino 6.5以降
Box	https://Box.com
Dropbox	https://www.dropbox.com/xxxx/
Google Drive（予定）	https://drive.google.com/xxxx/

（※）データベースは一例です。他のデータベースをご希望の場合はお問い合わせください。

（※）上記に掲載されていないレポジトリをご希望の場合はお問い合わせください。

「Neuron ES」紹介資料のご紹介

「企業内検索エンジンNeuron ES」について
詳しく説明している紹介資料です。



ダウンロードはこちら

お問い合わせ先

パナソニック デジタル株式会社

お問合せ <https://service.digital.panasonic.co.jp/contact>



※本資料に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。